

## 富山県における中近世の土器・陶磁器流通 - 甕・壺・擂鉢を中心にして -

宮田 進一（富山県文化振興財団）



### 1 はじめに

富山県における中世の甕・壺・擂鉢は、珠洲、越前、それに在地陶器である八尾と瀬戸美濃がわずかである。単純な様相である。発表資料では、各時代の様相を詳しく述べたので、ここでは、陶器生産である八尾について、取り上げる。

### 2 八尾の生産

#### 窯の概要と器種

富山県の中央部、東の神通川と西の井田川に挟まれた丘陵裾の富山市（旧八尾町）深谷地内に立地する。県内唯一の中世窯である。窯は4基で、長さ10m、幅2mの半地下式竈窯である。窯下方に長さ50m、幅25mの灰層が広がる。灰層の北西尾根に7箇所、南側斜面に1箇所のテラス状遺構があり、作業場と考えられる（八尾町教委1984）。

採集された器種には、甕・広口壺・小壺・擂鉢・蓋がある。大多数が甕・広口壺である。無釉の瓷器系製品で、器面外面を板状工具でカキアゲ、ナデ仕上げを基本にしている。板の木口でハケメ状調整痕を残すものがあり、この調整は加賀に類似する。

甕・広口壺は、未発達や発達した「N」字状口縁部で、押印・ヘラ記号などの加飾がわずかに見られる。壺には広口壺以外に玉縁状口縁の壺がある。擂鉢は高台が付かなく、オロシメのあるものとなないものがある。押印の種類は少ない。

#### 時期

八尾の時期を検討するときに、八尾と加賀の類似点は共通認識されているが、常滑編年が加賀編年のどちらかをを用いるかによって、年代観が少しずつれてくる。13世紀前半～14世紀前後の酒井重洋氏（酒井1997）・13世紀後半の中野晴久氏（中野1996）、13世紀前半～14世紀初めの垣内光次郎氏（垣内2005）がある。加賀との比較から外反する三角形の口縁部（Ⅰ期）、N字状口縁部（Ⅱ期）とその発達した口縁部（Ⅲ期）という垣内氏の3区分に従って、図化された消費地資料の口縁部形態から検討してみると、Ⅱ・Ⅲ期のものが多いが、Ⅰ期も40%ほどある。そのことが、八尾の時代差を表しているとすれば、やや古い形態を残しながら八尾は13世後半に中心があり、遅くとも14世紀初めには終焉したと推測される。

#### 流通

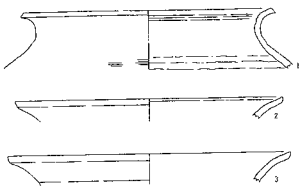
八尾の遺跡出土例は、60箇所以上を数える。その範囲は酒井氏が指摘したように県内一円に及び、県外では飛騨市江馬氏館跡に分布を見る。県内の出土遺跡では、陶磁器に占める八尾の割合が1%以下のものが大部分である。このことは、窯数の少なさと焼成技術の脆弱さによるもので、八尾の競争力の弱さと生産能力の限界を示し、やがて珠洲に対抗できず、八尾が自然消滅していった原因になったとされている（酒井1990）。ただし、窯から直線で32km離れている岐阜県江馬氏館跡で八尾が3%を占めていることは、山間部に販路を求めて、海運への依存の強い珠洲の交易に対抗した結果であろう（吉岡1994）。

ところで、八尾の流通を考える場合、窯から10km以内で、神通川流域にある富山市道場Ⅰ遺跡や中名Ⅰ遺跡などが参考になる。ヘラ描き文字（「界方」？）のある中名Ⅰ遺跡出土擂鉢は特注品と考えられ、また、この地域の八尾が2～3%台を示していることは、この地域が八尾の主な流通圏であるがわかる。更に、遺跡の立地状況から拠点の遺跡である道場Ⅰ遺跡では、八尾が20%を占めている（富山県文化振興2004）。このことは、八尾流通の集積地と考えるよりも、珠洲に対抗するために八尾窯の近辺にある拠点的な遺跡を中心に流通していた実態を示すものと推測される。このような中核的な遺跡が他の陶磁器指向を替えたりやその遺跡の衰退が、八尾の生産消滅の一因になったことも想像される。

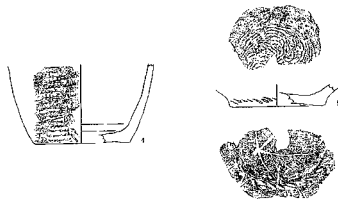
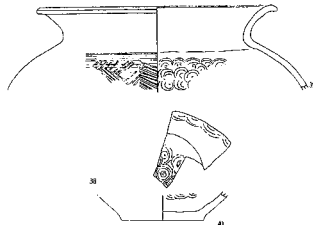
中世前期の様相(富山県)

12世紀後半

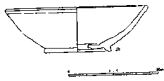
瓷器系



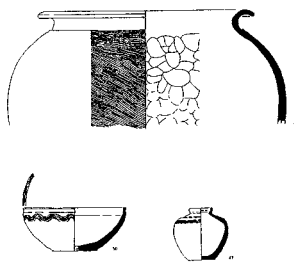
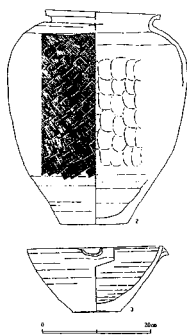
須恵器系



常滑



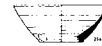
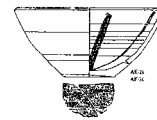
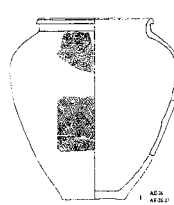
珠洲



中世前期の様相(富山県)

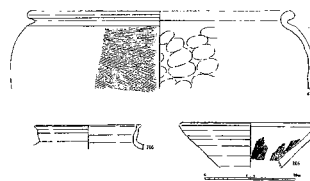
13世紀前半

珠洲

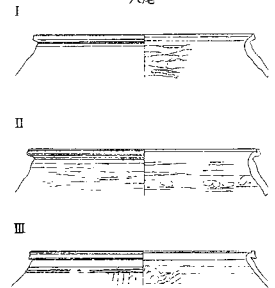


13世紀後半

珠洲

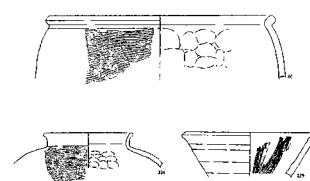


八尾



14世紀前半

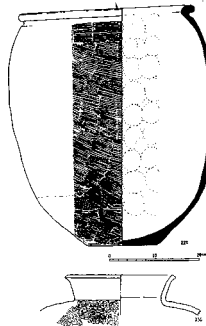
珠洲



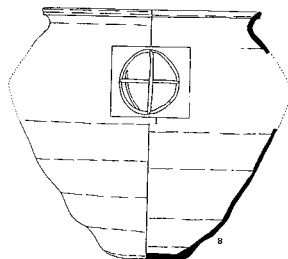
中世後期の様相(富山県)

14世紀後半

珠洲

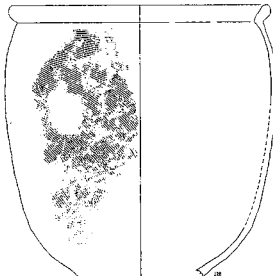


越前



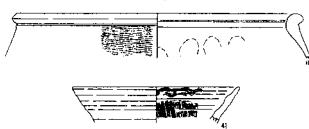
15世紀前半

珠洲



15世紀後半

珠洲



越前



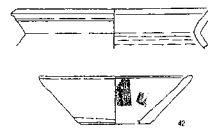
土師質播鉢



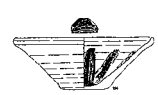
中世後期から近世初期の様相(富山県)

16世紀前期

越前

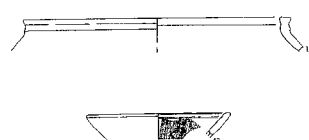


瀬戸英濃

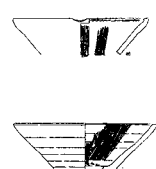


16世紀後期

越前

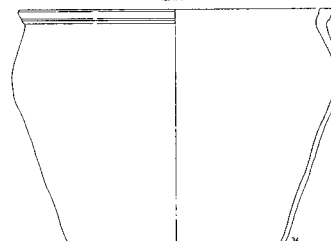


土師質播鉢

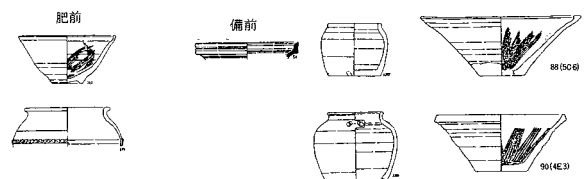


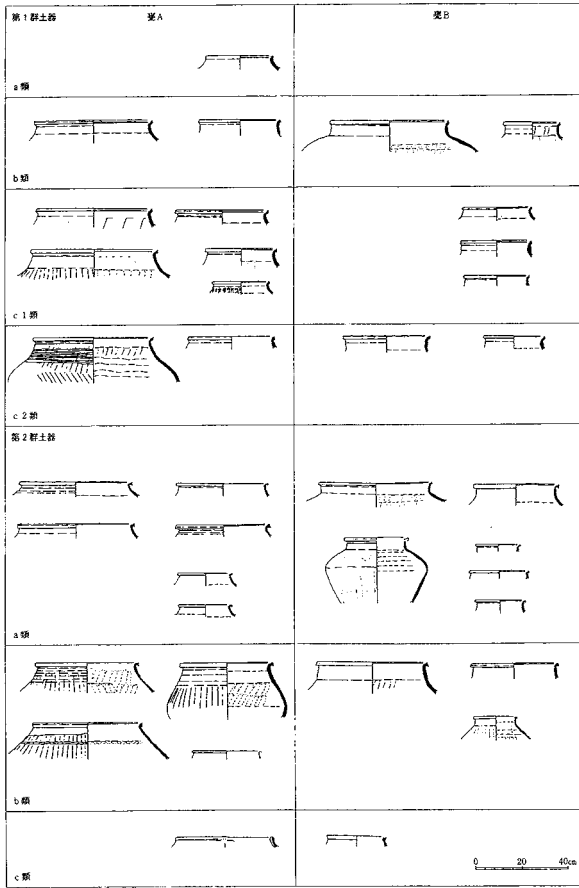
16世紀末から17世紀前半

越前



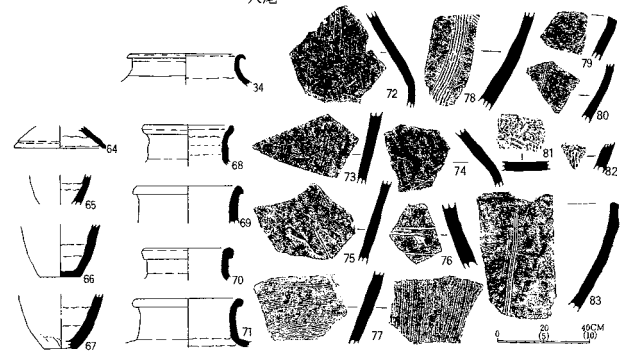
越中瀬戸





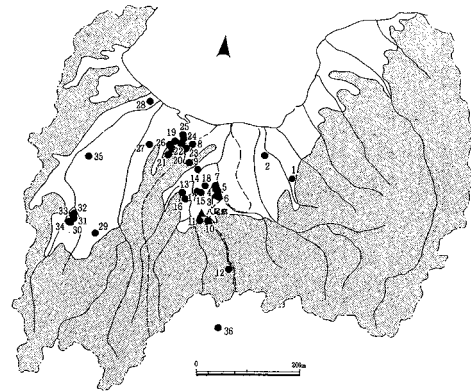
京ヶ崎古窯出土遺物分類図

(酒井 1997)



第24図 土器実測図 (1/8) 67～82(1/4)、82は〔酒井他1984〕より

(八尾町教委 1984)

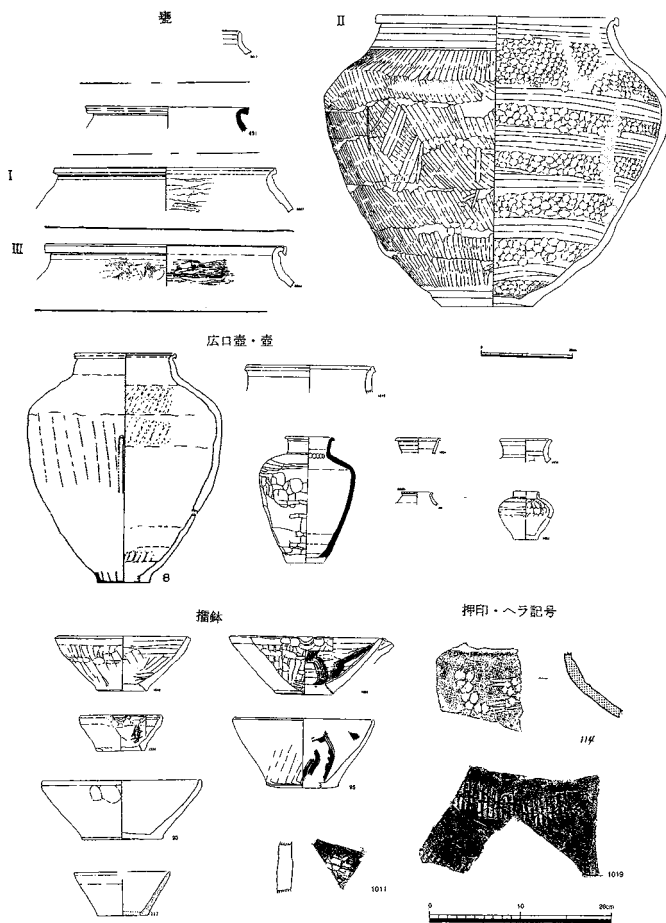


第300図 八尾出土遺跡

1 可住城跡、2 竹内天神堂古墳、3 吉倉A遺跡、4 吉倉B遺跡、5 市井中田C遺跡、6 市井中田D遺跡、7 佐藤鎌倉遺跡、8 市井中田C遺跡、9 市井中田D遺跡、10 佐藤鎌倉遺跡、11 佐藤鎌倉遺跡、12 佐藤鎌倉遺跡、13 佐藤鎌倉遺跡、14 佐藤鎌倉遺跡、15 佐藤鎌倉遺跡、16 市井中田C遺跡、17 市井中田D遺跡、18 市井中田C遺跡、19 市井中田D遺跡、20 市井中田C遺跡、21 市井中田D遺跡、22 市井中田C遺跡、23 市井中田D遺跡、24 市井中田C遺跡、25 市井中田D遺跡、26 市井中田C遺跡、27 市井中田D遺跡、28 市井中田C遺跡、29 市井中田D遺跡、30 市井中田C遺跡、31 市井中田D遺跡、32 市井中田C遺跡、33 市井中田D遺跡、34 市井中田C遺跡、35 市井中田D遺跡、36 市井中田C遺跡

(酒井 1997)

## 集落遺跡・墓跡出土の八尾



## 富山県の中近世の様相

器種	種類	12世紀後半	13世紀前半	13世紀後半	14世紀前半	14世紀後半	15世紀前半	15世紀後半	16世紀前半	16世紀後半	17世紀前半
甕	珠洲										
	八尾										
	加賀										
	越前										
壺	肥前										
	珠洲										
	八尾										
	加賀										
樽鉢	越前										
	信濃										
	常陸										
	八尾										
樽鉢	越前										
	美濃										
	加賀										
	越前										